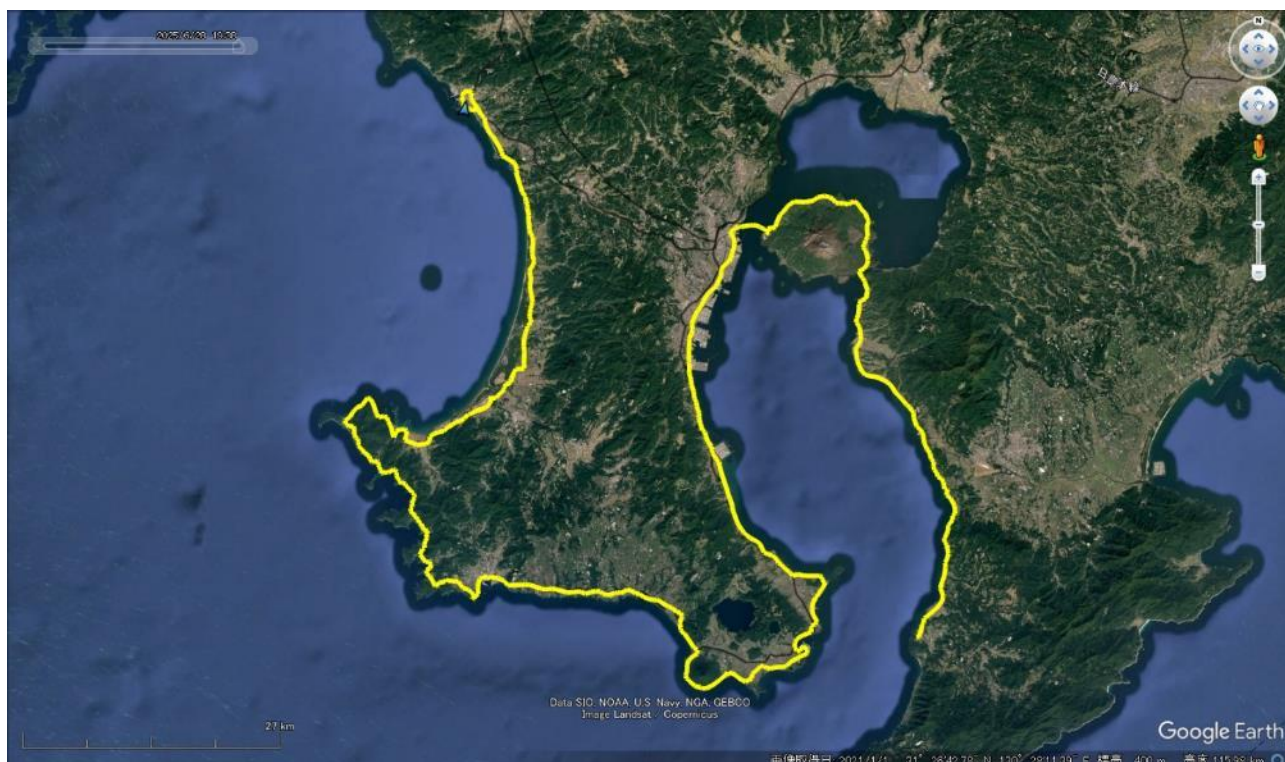


☆6 日目（6 月 28 日）：根占から串木野まで



行程地図（6 日目）_記録 OLYMPUS TOUGH TG-6

今日も天気予報は晴れである。朝食は、いつものコンビニのパンとジュース。九州は関東より日の出が遅いので、出発時はまだ薄暗い。

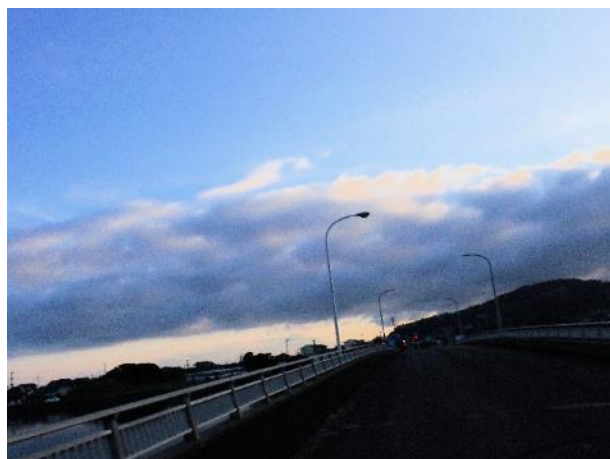


写真 269. 早朝まだ薄暗い中を出発



写真 270. 遠く霧島連山が見える

国道 269 号を北上し、鹿屋の手前で県道 68 号に入り海岸線を通る。海の中の岩に菅原神社が建っているの見える。満潮時に中道は沈んでしまうのではないかと心配である。

神社を過ぎてから、今度は国道 220 号で海岸線を北上する。桜島がだいぶ近くなってきた。垂水市の市街地では、桜島が町に迫ってくる迫力だ。



写真 271. 海の中の菅原神社



写真 272. 垂水市内からの桜島



写真 273. 桜島までまもなく



写真 274. 噴煙の形が刻一刻と変化する

桜島に入ってから、北側の県道 26 号を回るルートを選択。111 年前の噴火で埋没した、「黒神埋没鳥居」を見学。南側の国道ルートの方がメインなのであろう、北側県道は空いていた。



写真 275. 黒神埋没鳥居



写真 276. 県道にある案内板

時折視界が開けて、桜島の山肌が見えたり、北側の錦江湾が見えたりした。桜島港が近づく対岸の鹿児島市が見えてきた。フェリーは便数が多いので着いた時にちょうど出る船があったので急いで乗船した。運賃は、大人 250 円、大型バイク 640 円だった。



写真 277. 雲がかかる桜島



写真 278. 鹿児島市が見えてきた



写真 279. 車両甲板はガラガラ



写真 280. 桜島港を後にする



写真 281. 鹿児島港が近づいてくる



写真 282. 桜島とお別れ

いよいよ薩摩半島鹿児島に到着。南国情緒ある市街地を抜けて、国道 226 号を南下。錦江湾に沿って走る、海景色のきれいな国道。振り向けば、桜島が見える。大きな、ENEOS の石油備蓄基地があったりする。天気がいいので、対岸の大隅半島もよく見える。途中県道 238 号に曲り、知林ヶ島の方に向かったが、指宿エコキャンプ場より先は、利用者以外入場禁止となっていたので、そのまま県道 238 号を指宿まで南下した。



写真 283. 南国情緒ある鹿児島市内



写真 284. 海岸線の国道を南下



写真 285. 振り向けば桜島



写真 286. ENEOS 喜入石油備蓄基地が見える

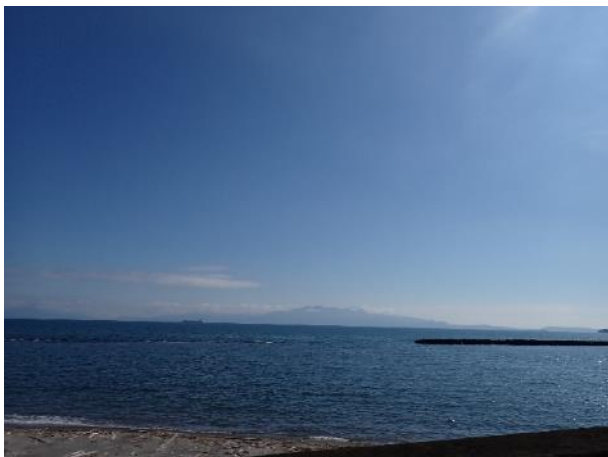


写真 287. 対岸は、大隅半島



写真 288. この先利用者以外立ち入り禁止

指宿で、県道 238 号から国道 269 号を進みと右手に「指宿フェニックスホテル」が見えてきた。聞いたことあるなーと考えたら、47 年前に高校の修学旅行で泊まった宿だった。そこから、山川港に向かい道の駅「山川港 活お海道 (いおかいどう)」に行く。当初ここで昼食を取る予定だったが、早すぎてまだ開いていない。仕方ないので名物の「味付け鰹」と「鰹マヨネーズ」をお土産に買って、先に進んだ。



写真 289. キャンプ場駐車場



スタンプ 01. 47 年前の記念スタンプ



写真 290. 「かつお節の本場 山川港」



写真 291. 道の駅「山川港」

県道 242 号を進むと、開聞岳が迫ってくる。開聞岳の海岸側は、「酷道」になると聞いていたので、覚悟をしていたが、その入り口から入り方が難しく、開聞岳周回コース方面に行くと、開聞山麓自然公園の入り口ゲートになってしまった。係員に聞いたら、ゲートすぐ手前の細道を左に入っていかないといけなかった。



写真 292. 開聞岳が見えてきた



写真 293. 迫り来る開聞岳

開聞岳周回道路は、こんもりした茂みの中の細道かと思えば、急に対向車が来るとすれ違えないごく細トンネルとなる。これが暗くて、急に屋根が無くなったと思えばまた暗いトンネル。トンネル抜けても整備されていない茂みの中の道。

この闇の中、対向車が来ないかの恐怖感が、「酷道」と呼ばれる所以なのだろう。



写真 294. 暗くて細長いトンネル



写真 295. 屋根がないトンネル



写真 296. 細い林道が続く

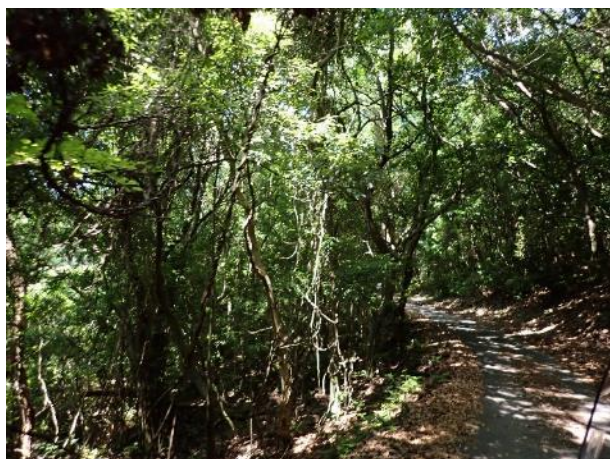


写真 297. 路面は、所々荒れている

しばらくすると、やっと海が見えて、ホットする。遠くに硫黄島と竹島が見える。ここはもう東シナ海である。



写真 298. 海が見えてホットする



写真 299. 硫黄島と竹島が見える絶景

また、海は見えなくなるが、畑などがあり、生活道路して道も良くなる。視界が開けると、開聞岳がやっと見えた。



写真 300. 終盤道は良くなる



写真 301. 開聞岳の海側の姿

周回道路から、開門十町を抜けて国道 226 号に出る。開門十町の道には、石灯籠が並ぶ道があった。戦没者を慰霊するために、戦跡などの近くには良くあるが、ここは後ろの開聞岳に向かって並んでいるように見えた。国道 226 号を進むと開聞岳の撮影スポットとして有名な平瀬自然公園に着く。ここと、この先の公園駐車帯の松がフォトジェニックということで、両方で写真撮影。



写真 302. 道路に並ぶ石灯籠



写真 303. 撮影スポット平瀬自然公園



写真 304. こども「かごしまロマン街道」



写真 305. 平瀬公園駐車帯



写真 306. 松のシルエットが開間岳を引き立てる
また少し行くと「白波」の文字が。薩摩酒造株式会社 鯉娃（えい）蒸溜所である。ものすごく大きな蒸留所。ここで、全国の焼酎ファンへの供給をまかなっているのですね。



写真 307. 薩摩で「白波」と言えば
また少し行くと「白波」の文字が。薩摩酒造株式会社 鯉娃（えい）蒸溜所である。ものすごく大きな蒸留所。ここで、全国の焼酎ファンへの供給をまかなっているのですね。



写真 308. 結構まっすぐな国道 226 号



写真 309. 南国の空と海

枕崎市内に入って、昼食を頂くために「枕崎お魚センター」に入った。鯉のモニュメント、鯉のロゴマークを見れば、ここも、「鯉！」で売っている町だとすぐ分かる。まずは、腹ごしらえ。「地魚刺身定食」を頂くことにした。



写真 310. 枕崎お魚センター

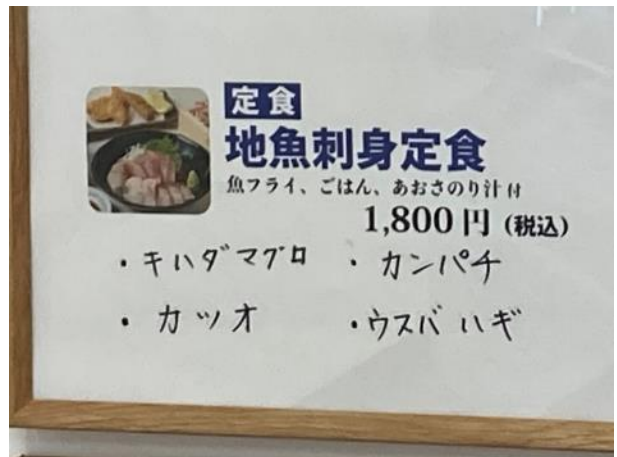


写真 311. 本日のお魚は？

この食堂が面白いのは、「かつお節取り放題」と「かつおだし飲み放題」となっているところ。お刺身も新鮮で肉厚、美味しかった。最後に、ご飯にかつお節と出汁を掛けて「かつおご飯」にして食べた。なかなかいいお店に巡り会えた。



写真 312. かつお節と出汁のバイキング



写真 313. 地魚刺身定食



写真 314. ご飯にかつお節と出汁



写真 315. 開間岳が遠くなった

食後は、国道 226 号には出ず、そのまま海沿いの「火の神ロード」を岬の方に南下した。岬の先に「立神岩」が立っているのが見える。この辺が、映画「男達の大和／YAMATO」のロケ地だと、案内板に書いてあった。



写真 316. 「立神岩」(映画ロケ地あたり)



写真 317. ロケ地案内

次ページ (06_2) https://kurotora2.michikusa.jp/event/2025_Kyushu/2025_kyushu_06_2.pdf